

2024年度

日本健康医療専門学校

シラバス (講義概要)

鍼灸学科

3年生

分野	教育内容	科目と関係のある実務経験		
専門基礎分野	疾病の成り立ち、その予防及び回復の促進	鍼灸院経営の実務経験		
授業科目		配当年次	配当学期	区分
臨床医学総論 2		3学年	前期	必修
担当者名		単位	時間数	授業形態
町田 良太		1単位	30時間	講義
1 授業科目の概要・到達目標				
〈概要〉				
本講義では、医療従事者として必要な西洋医学的身体診察及び治療に関する医学的知識、技能に関して学習する。この時間では身体診察の中でも、鍼灸臨床で関わりが多い運動麻痺や筋肉の異常、起立と歩行などの運動機能異常について深く学習する。				
〈到達目標〉				
関節可動域検査や徒手筋力検査などは実際に鍼灸臨床でも実施頻度が高い検査となるため、その知識と技術を身に付けることも本講義の重要な目的となる。				
2 授業内容				
第1回	局所の診察			
第2回	局所の診察			
第3回	局所の診察			
第4回	局所の診察			
第5回	局所の診察			
第6回	局所の診察			
第7回	運動機能検査			
第8回	運動機能検査			
第9回	運動機能検査			
第10回	運動機能検査			
第11回	検査法			
第12回	検査法			
第13回	問題演習・復習			
第14回	問題演習・復習			
第15回	試験解説			
3 履修上の注意				
居眠り等せず、積極的に参加すること				
4 準備学習（予習・復習等）の内容				
授業内容をしっかり理解する目的で予習を行い、授業内容をしっかり定着させる目的で復習を行うこと				
5 教科書				
東洋療法子校協云編教科書 臨床医学総論 第2版				
6 参考書				
7 成績評価の方法				
試験による				
8 教員紹介（学位、資格、指導経歴等）				
中学・高校の部活動のトレーナーも務める。				

分野	教育内容	科目と関係のある実務経験		
専門基礎分野	疾病の成り立ち、その予防及び回復の促進	鍼灸院の臨床経等の実務経験		
授業科目		配当年次	配当学期	区分
臨床医学各論3		3学年	前期後期	必修
担当者名		単位	時間数	授業形態
鈴木 誠		2単位	60時間	講義
1 授業科目の概要・到達目標				
〈概要〉				
超高齢社会の到来、生活習慣病の増加などを受けて疾病構造が複雑化かつ多様化している現代社会において、鍼灸医学に対する期待も大きくなっている中で、はり師きゅう師が西洋医学的観点から臨床医学の知識を身に付けることは重大な意義を持つ。				
〈到達目標〉				
腎・尿器疾患、内分泌疾患、代謝栄養疾患、血液・造血器疾患、膠原病リウマチ性疾患などの疾病に関する医学的知識についてその概念を把握し、その原因、症状、検査、治療およびその予後について医療従事者に必要な基礎知識を修得し、実際の臨床において適切な患者対応が出来る				
2 授業内容				
第1回	ガイダンス	第16回	代謝・栄養疾患 (3)	
第2回	感染症	第17回	代謝・栄養疾患 (4)	
第3回	感染症	第18回	代謝・栄養疾患 (5)	
第4回	感染症	第19回	代謝・栄養疾患 総復習	
第5回	感染症	第20回	血液・造血器疾患 (1)	
第6回	感染症	第21回	血液・造血器疾患 (2)	
第7回	感染症 総復習	第22回	血液・造血器疾患 (3)	
第8回	内分泌疾患 (1) 下垂体疾患	第23回	血液・造血器疾患 (4)	
第9回	内分泌疾患 (2) 甲状腺疾患	第24回	血液・造血器疾患 総復習	
第10回	内分泌疾患 (3) 副腎疾患	第25回	膠原病 (1)	
第11回	内分泌疾患 (4) 副腎疾患	第26回	膠原病 (2)	
第12回	内分泌疾患 総復習	第27回	膠原病 (3)	
第13回	代謝・栄養疾患 (1)	第28回	膠原病 (4)	
第14回	代謝・栄養疾患 (2)	第29回	総復習	
第15回	定期試験1	第30回	定期試験2	
3 履修上の注意				
学則に従い受講すること。				
4 準備学習（予習・復習等）の内容				
前回の授業内容の復習をすること。				
5 教科書				
「臨床医学各論 第2版」 東洋療法学校協会編 (医歯薬出版株式会社)				
6 参考書				
7 成績評価の方法				
①定期試験1と定期試験2それぞれで60%以上を合格とする。				
②3年次で課されるすべての課題を提出すること。				
8 教員紹介（学位、資格、指導経歴等）				
現在は個人で訪問治療、スポーツトレーナーとして活動。				

分野	教育内容	科目と関係のある実務経験		
専門基礎分野	疾病の成り立ち、その予防及び回復の促進	鍼灸院経営及び臨床の実務経験		
授業科目		配当年次	配当学期	区分
臨床医学各論 4		3学年	前期後期	必修
担当者名		単位	時間数	授業形態
野口 智立		2単位	60時間	講義
1 授業科目の概要・到達目標				
〈概要〉				
超高齢社会の到来、生活習慣病の増加などを受けて疾病構造が複雑化かつ多様化している現代社会において、鍼灸医学に対する期待も大きくなっている中で、はり師きゅう師が西洋医学的観点から臨床医学の知識を身に付けることは重大な意義を持つ。この講義では、疾病に関する医学的知識についてその概念を把握し、その原因、症状、検査、治療およびその予後について医療従事者に必要な基礎知識を修得する。				
〈到達目標〉				
鍼灸臨床で遭遇しうる疾患の知識を持ち、症状、原因、予後等の説明ができるようにする。				
2 授業内容				
第1回	循環器疾患①	第16回	神経疾患⑤	
第2回	循環器疾患②	第17回	神経疾患⑥	
第3回	循環器疾患③	第18回	神経疾患⑦	
第4回	循環器疾患④	第19回	神経疾患⑧	
第5回	循環器疾患⑤	第20回	神経疾患⑨	
第6回	循環器疾患⑥	第21回	神経疾患⑩	
第7回	循環器疾患⑦	第22回	その他の領域①（麻酔科）	
第8回	循環器疾患⑧	第23回	その他の領域②（麻酔科）	
第9回	循環器疾患⑨	第24回	その他の領域③（婦人科疾患）	
第10回	循環器疾患⑩	第25回	その他の領域④（皮膚科疾患）	
第11回	神経疾患①	第26回	その他の領域⑤（眼科疾患）	
第12回	神経疾患②	第27回	その他の領域⑥（耳鼻科疾患）	
第13回	神経疾患③	第28回	その他の領域⑦（精神科疾患）	
第14回	定期試験1	第29回	その他の領域⑧（心療内科）	
第15回	神経疾患④	第30回	定期試験2	
3 履修上の注意				
基礎科目の知識や臨床医学総論、その他の臨床医学各論と合わせて学習することで、総合的な問題に対応することができる。				
4 準備学習（予習・復習等）の内容				
該当する分野の解剖学、生理学は各自で復習をして授業に臨むこと。				
5 教科書				
臨床医学各論 第2版 医歯薬出版株式会社				
6 参考書				
7 成績評価の方法				
筆記試験（定期試験で60%以上の得点が単位認定の条件となる。）				
8 教員紹介（学位、資格、指導経歴等）				
鍼灸教員免許取得				

分野	教育内容	科目と関係のある実務経験		
専門基礎分野	疾病の成り立ち、その予防及び回復の促進	鍼灸整骨院の実務経験		
授業科目		配当年次	配当学期	区分
リハビリテーション医学		3学年	前期後期	必修
担当者名		単位	時間数	授業形態
金 世野		2単位	60時間	講義
1 授業科目の概要・到達目標				
〈概要〉				
<p>リハビリテーションとは「人間らしく生きる権利の復活」という意味である。そのために運動機能や日常生活活動の障害を回復に導き、社会や環境への適応を促すための知識・技術がリハビリテーション医学である。</p> <p>超高齢社会を迎えた日本社会において、今後ますます慢性疾患、特に運動器系の障害や機能低下を抱える患者が増えることが予想される中で、鍼灸師が今後の医療・介護の現場で活躍する人材となるために、リハビリテーション</p>				
〈到達目標〉				
この時間ではリハビリテーションの理念や障害の捉え方、脳血管障害や脊髄損傷など代表的な疾患のリハビリテーションについて学び、鍼灸臨床に活かせる知識・技術を習得する。				
2 授業内容				
第1回	リハビリテーションと障害	第16回	脊髄損傷のリハビリテーション	
第2回	リハビリテーション医学と医療	第17回	脊髄損傷のリハビリテーション	
第3回	障害の評価	第18回	脊髄損傷・切断のリハビリテーション	
第4回	活動の評価、合併症の評価、運動麻痺の評価	第19回	小児のリハビリテーション	
第5回	運動年齢テスト、失行失認テスト、心理的評価	第20回	骨関節疾患のリハビリテーション	
第6回	医学的リハビリテーション	第21回	骨関節疾患のリハビリテーション	
第7回	理学療法（運動療法）	第22回	関節リウマチのリハビリテーション	
第8回	理学療法（物理療法）、作業療法、言語聴覚療法	第23回	関節リウマチのリハビリテーション	
第9回	補装具	第24回	末梢神経障害のリハビリテーション	
第10回	補装具	第25回	パーキンソン病のリハビリテーション	
第11回	脳卒中のリハビリテーション	第26回	呼吸器疾患のリハビリテーション	
第12回	脳卒中のリハビリテーション	第27回	心疾患のリハビリテーション	
第13回	脳卒中のリハビリテーション	第28回	運動学	
第14回	復習	第29回	運動学	
第15回	定期試験1	第30回	定期試験2	
3 履修上の注意				
国家試験対策も兼ねている為、居眠りなどせず積極的に参加すること				
4 準備学習（予習・復習等）の内容				
授業日程に沿って当該項目の内容を予習すること。授業中は配布したサブテキスト、プリントの穴埋めを記入し、要点をまとめて復習すること				
5 教科書				
リハビリテーション医学（医歯薬出版株式会社）				
6 参考書				
現代リハビリテーション医学（金原出版）				
7 成績評価の方法				
定期試験1および定期試験2それぞれ60%以上の成績と小テストの結果も考慮して単位を認める				
8 教員紹介（学位、資格、指導経歴等）				

分野	教育内容	科目と関係のある実務経験		
専門基礎分野	保健医療福祉とはり及びきゅうの理念	鍼灸院の実務及び経営経験		
授業科目		配当年次	配当学期	区分
医療概論		3学年	前期	必修
担当者名		単位	時間数	授業形態
山元 大樹		1単位	15時間	講義
1 授業科目の概要・到達目標				
〈概要〉				
医療・医学を、歴史・論理・倫理の点から考えることにより、鍼灸師をめざすにあたって、「医療」というものを根本から考え、鍼灸を行う目的や、患者に対する態度など自ら考えられるようになり、鍼灸師としてよりよい対応ができるようにすることを目的とする。				
〈到達目標〉				
この講義では、医療・医学の歴史の概要を理解し、現代社会において、西欧近代医学と東洋医学が提示する論理について、またその論理と現実との間で生じる問題を、相互に関連させながら考えることが出来るようにすることを目標とする。				
2 授業内容				
第1回	ガイダンス			
第2回	医の倫理			
第3回	医の倫理			
第4回	医の倫理			
第5回	医学史			
第6回	現代医療制度			
第7回	現代医療制度			
3 履修上の注意				
学則に従い受講すること				
4 準備学習（予習・復習等）の内容				
5 教科書				
医療概論 〈東洋療法学校協会編〉（医歯薬出版株式会社）				
6 参考書				
7 成績評価の方法				
レポートの提出				
8 教員紹介（学位、資格、指導経歴等）				
合同会社 結 CEO、鍼灸院ひなた 院長				

分野	教育内容	科目と関係のある実務経験		
専門基礎分野	保健医療福祉とはり及びきゅうの理念	鍼灸院経営及び臨床の実務経験		
授業科目		配当年次	配当学期	区分
関係法規		3学年	前期	必修
担当者名		単位	時間数	授業形態
野口 智立		1単位	15時間	講義
1 授業科目の概要・到達目標				
〈概要〉				
あん摩マッサージ指圧師、はり師、きゅう師等に関する法律と、その他の医事福祉法規を理解することにより、はり師・きゅう師として法律を遵守し、業務を遂行できるようにすることを目的とする。				
〈到達目標〉				
この講義では、①あん摩マッサージ指圧師、はり師、きゅう師等に関する法律②その他の関係法規を正しく理解することを目標に学習する。				
2 授業内容				
第1回	オリエンテーション、法とは何か、成文法、不文法あはき法（免許）			
第2回	あはき法（業務）			
第3回	あはき法（業務）、医療法			
第4回	医師法、薬事法規、衛生関係法規			
第5回	衛生関係法規、社会福祉関係法規			
第6回	社会福祉関係法規、社会保険関係法規			
第7回	社会保険関係法規、個人情報保護法			
第8回	最終評価			
3 履修上の注意				
学則に従い受講すること				
4 準備学習（予習・復習等）の内容				
5 教科書				
関係法規 〈東洋療法学校協会編〉（医歯薬出版株式会社）				
6 参考書				
7 成績評価の方法				
筆記試験（定期試験で60%以上の得点が単位認定の条件となる。）				
8 教員紹介（学位、資格、指導経歴等）				
鍼灸教員免許取得				

分野	教育内容	科目と関係のある実務経験		
専門分野	基礎はり学、基礎きゅう学	大学病院付属鍼灸センター及び訪問治療の実務経験		
授業科目		配当年次	配当学期	区分
はりきゅう理論2		3学年	前期	必修
担当者名		単位	時間数	授業形態
菅谷 匡美		2単位	40時間	講義
1 授業科目の概要・到達目標				
〈概要〉				
鍼灸刺激が人体に与える影響について、生理学（感覚受容器・神経線維・脊髄内伝導路など）の側面から、様々な研究結果を通して学ぶ。				
〈到達目標〉				
鍼灸師として必要な、鍼灸治療の治効理論を身につけ、臨床において患者に説明できる事を目標とする。				
2 授業内容				
第1回	第8章 生体の調節 運動系の調節	第16回	第9章リラクゼーションと鍼灸、生体防御系と鍼灸	
第2回	第8章 生体の調節 内臓系の調節	第17回	第10章 刺激部位、刺激入力	
第3回	第8章 感覚 総論、感覚線維	第18回	第10章 刺激入力、鍼灸刺激による治効機序	
第4回	第8章 感覚 脊髄伝導路、痛覚、侵害受容器	第19回	第10章 鍼灸刺激による治効機序	
第5回	第8章 感覚 内因性発痛物質、伝導路、温度覚	第20回	定期試験2	
第6回	第8章 感覚 触圧覚、熱傷(炎症)			
第7回	第8章 感覚 体表の反応 第9章 鍼鎮痛			
第8回	第9章 鍼鎮痛 下行性痛覚抑制系、DNIC			
第9回	第9章 鍼鎮痛 脊髄分節性鎮痛、末梢性鎮痛			
第10回	定期試験1			
第11回	第9章 鍼灸治効機序 鍼鎮痛個人差、軸索反射			
第12回	第9章 鍼灸治効機序 軸索反射、筋循環と鍼			
第13回	第9章 循環系と鍼 筋循環と鍼、心拍数			
第14回	第9章 運動系と鍼 消化器系と鍼			
第15回	第9章 消化器系と鍼、泌尿器系と鍼			
3 履修上の注意				
私語は慎む。携帯電話や飲食物は机上に置かない。学則に則って受講をすること。				
4 準備学習（予習・復習等）の内容				
前回の講義の復習を行うこと。				
5 教科書				
はりきゅう理論 第3版 東洋療法学校協会編 医道の日本				
6 参考書				
生理学 第3版 東洋療法学校協会編 医歯薬出版株式会社				
7 成績評価の方法				
定期試験1および定期試験2それぞれ60%以上の成績を合格とする。				
8 教員紹介（学位、資格、指導経歴等）				

分野	教育内容	科目と関係のある実務経験		
専門分野	社会はり学、社会きゅう学	鍼灸院経営の実務経験		
授業科目		配当年次	配当学期	区分
社会はりきゅう論1		3学年	前期	必修
担当者名		単位	時間数	授業形態
山元 大樹		1単位	15時間	講義
1 授業科目の概要・到達目標				
〈概要〉				
<p>社会保障政策の改革や社会構造そのものが大きく変化する昨今、鍼灸師を取り巻く環境も大きく変化した。今後の鍼灸の発展、質の向上をはかるために、鍼灸師としてのニーズを把握するとともに、現代社会における鍼灸師の役割を考え、社会環境の変化に対応できるような鍼灸師を目指すことを目的とする。</p>				
〈到達目標〉				
<p>この講義では、現代社会における医療制度の現状を理解すること、また、地域医療について理解し、鍼灸師として地域で期待される業務を理解することを目標とする。</p>				
2 授業内容				
第1回	鍼灸師という働き方、世の中の働き方の分類就職先の選び方			
第2回	医療概論 補助 倫理			
第3回	医療概論 補助 倫理			
第4回	医療概論 補助 西洋医学とは 東洋医学とは			
第5回	社会保障			
第6回	社会保障			
第7回	医療概論 補助 現代医療制度			
第8回	医療概論 補助 現代医療制度			
第9回	医療概論 補助 現代医療制度			
第10回	介護制度			
第11回	介護制度			
第12回	AI時代			
第13回	AI時代			
3 履修上の注意				
学則に従い受講すること				
4 準備学習（予習・復習等）の内容				
5 教科書				
医療概論 社会あけき学 〈東洋療法学校協会編〉（医歯薬出版株式会社）				
6 参考書				
7 成績評価の方法				
レポート提出				
8 教員紹介（学位、資格、指導経歴等）				
合同会社 結 CEO、鍼灸院ひなた 院長				

分野	教育内容	科目と関係のある実務経験		
専門分野	社会はり学、社会きゅう学	鍼灸院経営の実務経験		
授業科目		配当年次	配当学期	区分
社会はりきゅう論2		3学年	後期	必修
担当者名		単位	時間数	授業形態
山元 大樹		1単位	15時間	講義
1 授業科目の概要・到達目標				
〈概要〉				
<p>社会保障政策の改革や社会構造そのものが大きく変化する昨今、鍼灸師を取り巻く環境も大きく変化した。今後の鍼灸の発展、質の向上をはかるために、鍼灸師としてのニーズを把握するとともに、現代社会における鍼灸師の役割を考え、社会環境の変化に対応できるような鍼灸師を目指すことを目的とする。</p>				
〈到達目標〉				
この講義では、自らのキャリアビジョンを明確にすることで興味関心のある鍼灸分野を明確にする。				
2 授業内容				
第1回	人生キャリアを描く			
第2回	鍼灸師としてのキャリアをイメージする			
第3回	戦略的に目標を達成する			
第4回	選択理論心理学			
第5回	経営①			
第6回	経営②			
第7回	経営③			
第8回	経営④			
第9回	まとめ			
3 履修上の注意				
学則に従い受講すること				
4 準備学習（予習・復習等）の内容				
5 教科書				
社会あはき学 〈東洋療法学校協会編〉（医歯薬出版株式会社）				
6 参考書				
7 成績評価の方法				
レポート提出				
8 教員紹介（学位、資格、指導経歴等）				
合同会社 結 CEO、鍼灸院ひなた 院長				

分野	教育内容	科目と関係のある実務経験		
専門分野	実習	鍼灸院の臨床等の実務経験 開業鍼灸師		
授業科目		配当年次	配当学期	区分
はりきゅう実技3A		3学年	前期後期	必修
担当者名		単位	時間数	授業形態
阿部 好史		2単位	60時間	実技
1 授業科目の概要・到達目標				
〈概要〉				
基礎実技および応用実技で培った技術をもとに、鍼灸臨床で遭遇しやすい頸腕痛、肩関節痛、腰下肢痛、膝関節痛、スポーツ障害などの整形外科疾患や頭痛、腹痛、眩暈、疲労倦怠といった主要症候の治療方法について、その治療穴や鍼法・灸法を疾患別に学習する。				
〈到達目標〉				
筋膜の繋がりを、経筋の繋がりを、神経的なアプローチ、皮膚へのアプローチや筋トリガーポイント療法など様々な繋がりを学び東西医学のジャンルを越え鍼灸医術を体得し、卒業後の鍼灸臨床で実践できる治療技術を身に付けることを目標とする。				
2 授業内容				
第1回	ガイダンス 体の繋がりを知る/肩こり説明	第16回	頸回旋痛	
第2回	肩こり	第17回	頸回旋痛	
第3回	肩こり	第18回	手腱鞘炎	
第4回	腰痛①（椎間関節性腰痛）	第19回	変形性膝関節症	
第5回	腰痛②（胸腰筋膜性）	第20回	変形性膝関節症	
第6回	腰痛③（筋筋膜性）	第21回	三叉神経痛	
第7回	腰痛④（筋筋膜性②）	第22回	大後頭神経痛／GOTS	
第8回	腰痛⑤（筋筋膜性）	第23回	耳鳴り難聴	
第9回	腰下肢痛	第24回	耳鳴り難聴	
第10回	腰下肢痛	第25回	肋間神経痛	
第11回	肩関節周囲炎	第26回	肋間神経痛	
第12回	肩関節周囲炎	第27回	橈骨神経麻痺	
第13回	実技試験	第28回	実技試験	
第14回	実技試験	第29回	実技試験	
第15回	足根洞症候群	第30回	総復習	
3 履修上の注意				
・ 指の感覚で学ぶ・指示された事以外の施術は禁止・患者役は練習相手である事を忘れずに！ ・ 互いの良かった部分を伸ばしあうこと				
4 準備学習（予習・復習等）の内容				
5 教科書				
配布プリント/東洋医学臨床論				
6 参考書				
7 成績評価の方法				
実技試験の点数（口頭試問込み）に出席点を加味				
8 教員紹介（学位、資格、指導経歴等）				

分野	教育内容	科目と関係のある実務経験		
専門分野	実習	鍼灸院の臨床等の実務経験		
授業科目		配当年次	配当学期	区分
はりきゅう実技3B		3学年	前期後期	必修
担当者名		単位	時間数	授業形態
鈴木 誠		2単位	60時間	実技
1 授業科目の概要・到達目標				
〈概要〉				
日本の鍼灸医学界には様々な流派・治療法が存在している。この時間では日本で行われている鍼灸治療や各流派の治療法について、その独自の考え方や特徴、取穴法や鍼法・灸法といった実技について学んでいく。				
〈到達目標〉				
美容鍼灸や婦人科疾患などにも対応できるよう、幅広い治療法を学んでいく。 学生中に多くの治療法に触れることで将来の自分の臨床スタイルを方向付ける手がかりとすることを目標とする。				
2 授業内容				
第1回	ガイダンス	第16回	鍼通電療法⑥	
第2回	トリガーポイント①	第17回	鍼通電療法⑦	
第3回	トリガーポイント②	第18回	鍼通電療法⑧	
第4回	トリガーポイント③	第19回	定期試験	
第5回	トリガーポイント④	第20回	定期試験	
第6回	トリガーポイント⑤			
第7回	トリガーポイント⑥			
第8回	トリガーポイント⑦			
第9回	トリガーポイント⑧			
第10回	トリガーポイント⑨			
第11回	鍼通電療法①			
第12回	鍼通電療法②			
第13回	鍼通電療法③			
第14回	鍼通電療法④			
第15回	鍼通電療法⑤			
3 履修上の注意				
実技細則を厳守すること。				
4 準備学習（予習・復習等）の内容				
筋肉の起始・停止・支配神経・作用を復習し、授業に臨むこと。				
5 教科書				
はりきゅう実技(基礎編)(㈱医道の日本社) ・ 東洋医学臨床論(はりきゅう編)(㈱医道の日本社)				
6 参考書				
鍼通電療法テクニック 改定第3版(㈱医道の日本社)				
7 成績評価の方法				
①実技試験において60%以上を取得する。②卒業見込実技試験を合格をしている。③実技授業で課されるすべての課題を提出している。				
8 教員紹介（学位、資格、指導経歴等）				
現在は個人で訪問治療、スポーツトレーナーとして活動。				

分野	教育内容	科目と関係のある実務経験		
専門分野	臨床実習	鍼灸マッサージ治療院の実務経験		
授業科目		配当年次	配当学期	区分
臨床実習B		3学年	前期後期	必修
担当者名		単位	時間数	授業形態
遠藤 好美		1単位	45時間	実技
1 授業科目の概要・到達目標				
〈概要〉				
臨床実習は指導教員のもとで実際の治療現場を治療者として経験することにより、今までの講義及び実習を通じて習得した知識・技術を広く応用させ、自分自身で面接から治療後までのアドバイスを行う中で、患者さんのもつ諸問題を解決しながら適切な患者—治療者関係の構築をはかることを目的としている。はり師きゅう師の資格取得を目指す学生が到達すべき行動目標として、具体的に以下の内容を定め実習を実施する。また、一連の鍼灸臨床のプ				
〈到達目標〉				
臨床実習を経験することにより、今までの講義及び実習を通じて習得した知識・技術を広く応用させ、自分自身で面接から治療後までのアドバイスを行う中で、自身の問題点を発見し、それを解決する姿勢を身につけることを目標とする。また実際の臨床に際して安全な施術を行うための知識と技術を身に付けることも目標となる。				
2 授業内容				
第1回	オリエンテーション			
第2回	臨床実習			
第3回	臨床実習			
第4回	臨床実習			
第5回	臨床実習			
第6回	臨床実習			
第7回	臨床実習			
第8回	臨床実習			
第9回	実習全体を通してのまとめ			
3 履修上の注意				
OSCEのすべての項目に合格していなければ参加を認めない。				
4 準備学習（予習・復習等）の内容				
臨床実習においてはこれまで1-2年次に学習した内容がすべて必要となる。しっかり知識を身に付けて臨むこと。				
5 教科書				
6 参考書				
7 成績評価の方法				
出席状況および授業への取り組み、診療録の内容、授業を通しての成長度、課題の提出状況などを元に総合的に評価する。				
8 教員紹介（学位、資格、指導経歴等）				

分野	教育内容	科目と関係のある実務経験		
専門分野	臨床実習	鍼灸治療院の実務経験		
授業科目		配当年次	配当学期	区分
臨床実習C		3学年	前期後期	必修
担当者名		単位	時間数	授業形態
遠藤 好美		1単位	45時間	実技
1 授業科目の概要・到達目標				
〈概要〉				
臨床実習は指導教員のもとで実際の治療現場を治療者として経験することにより、今までの講義及び実習を通じて習得した知識・技術を広く応用させ、自分自身で面接から治療後までのアドバイスを行う中で、患者の持つ諸問題を解決しながら適切な患者－施術者関係の構築をはかることを目的としている。はり師きゅう師の資格取得を目指す学生が到達すべき行動目標として、具体的に以下の内容を定め実習を実施する。また、一連の鍼灸臨床のプロセ				
〈到達目標〉				
臨床実習を経験することにより、今までの講義及び実習を通じて習得した知識・技術を広く応用させ、自分自身で面接から治療後までのアドバイスを行う中で、自身の問題点を発見し、それを解決する姿勢を身につけることを目標とする。また、臨床実技として美容鍼灸を学ぶとともに、実際の臨床に際して安全な施術を行うための知識と技				
2 授業内容				
第1回	オリエンテーション			
第2回	臨床実習			
第3回	臨床実習			
第4回	臨床実習			
第5回	臨床実習			
第6回	臨床実習			
第7回	臨床実習			
第8回	臨床実習			
第9回	実習全体を通してのまとめ			
3 履修上の注意				
実際の臨床を想定した実習になるため事前の準備を十分に行うこと。見学実習では必ずメモをとり実際の臨床現場と同様に真剣に取り組むこと				
4 準備学習（予習・復習等）の内容				
臨床実習においては、これまで1-2年次に学習した内容がすべて必要となる。しっかり知識見直して臨むこと。				
5 教科書				
6 参考書				
7 成績評価の方法				
出席状況および授業への取り組み、診療録の内容、授業を通しての成長度、課題の提出状況、身だしなみなどを元に総合的に評価する。				
8 教員紹介（学位、資格、指導経歴等）				
現在は訪問治療を個人で行う。				

分野	教育内容	科目と関係のある実務経験		
専門分野	臨床実習	開業鍼灸院の実務経験		
授業科目		配当年次	配当学期	区分
臨床実習D		3学年	後期	必修
担当者名		単位	時間数	授業形態
木下 立彦		1単位	45時間	実技
1 授業科目の概要・到達目標				
〈概要〉				
臨床実習は指導教員のもとで実際の治療現場を治療者として経験することにより、今までの講義及び実習を通じて習得した知識・技術を広く応用させ、自分自身で面接から治療後までのアドバイスを行う中で、患者の持つ諸問題を解決しながら適切な患者－施術者関係の構築をはかることを目的としている。はり師きゅう師の資格取得を目指す学生が到達すべき行動目標として、具体的に以下の内容を定め実習を実施する。また、一連の鍼灸臨床のプロセ				
〈到達目標〉				
臨床実習を経験することにより、今までの講義及び実習を通じて習得した知識・技術を広く応用させ、自分自身で面接から治療後までのアドバイスを行う中で、自身の問題点を発見し、それを解決する姿勢を身につけることを目標とする。また、臨床実技として美容鍼灸を学ぶとともに、実際の臨床に際して安全な施術を行うための知識と技				
2 授業内容				
第1回	臨床実習			
第2回	臨床実習			
第3回	臨床実習			
第4回	臨床実習			
第5回	臨床実習			
第6回	臨床実習			
第7回	臨床実習			
第8回	臨床実習			
第9回	臨床実習			
3 履修上の注意				
実際の臨床を想定した実習になるため事前の準備を十分に行うこと。見学実習では必ずメモをとり実際の臨床現場と同様に真剣に取り組むこと				
4 準備学習（予習・復習等）の内容				
臨床実習においては、これまで1-2年次に学習した内容がすべて必要となる。しっかり知識見直して臨むこと。				
5 教科書				
6 参考書				
7 成績評価の方法				
出席状況および授業への取り組み、診療録の内容、授業を通しての成長度、課題の提出状況、身だしなみなどを元に総合的に評価する。				
8 教員紹介（学位、資格、指導経歴等）				

分野	教育内容	科目と関係のある実務経験		
専門分野	総合領域	鍼灸院経営の実務経験		
授業科目		配当年次	配当学期	区分
専門科目B		3学年	前期後期	必修
担当者名		単位	時間数	授業形態
町田 良太		2単位	40時間	講義
1 授業科目の概要・到達目標				
〈概要〉				
近年の競技スポーツの世界では年々高度な技術が要求されるようになり、中高生のうちから早期の技術習得を求められているため、競技者は肉体的・精神的ストレスにさらされることが多くなった。また、高齢社会にあって多くの人が健康維持のためにスポーツに参加している状況もある。このようなスポーツの質的向上と量的拡大の結果として、スポーツ外傷や障害に悩む患者が増えているのが現状である。				
〈到達目標〉				
鍼灸治療による処置法だけでなく、テーピングやストレッチといったスポーツ現場で実践できる技術を身に付け、スポーツ現場で活躍することが出来る鍼灸師の育成、また患者・選手の状態が十分に評価でき、最適な医療を提供できるようになることを目標とする。				
2 授業内容				
第1回	アスレティックトレーナーについてスポーツと鍼灸師との関わりについて	第16回	各論 下肢帯・下肢スポーツ障害・外傷について	
第2回	応急処置	第17回	各論 上肢帯・上肢スポーツ障害・外傷について	
第3回	応急処置	第18回	各論 上肢帯・上肢スポーツ障害・外傷について	
第4回	テーピング概論・実技	第19回	各論 上肢帯・上肢スポーツ障害・外傷について	
第5回	テーピング実技	第20回	定期試験	
第6回	テーピング実技			
第7回	ストレッチ			
第8回	ストレッチ			
第9回	リコンディショニング			
第10回	リコンディショニング			
第11回	各論 体幹部スポーツ障害・外傷について			
第12回	各論 体幹部スポーツ障害・外傷について			
第13回	各論 体幹部スポーツ障害・外傷について			
第14回	各論 下肢帯・下肢スポーツ障害・外傷について			
第15回	各論 下肢帯・下肢スポーツ障害・外傷について			
3 履修上の注意				
実際の現場で活動しているつもりで、緊張感をもって積極的に臨むこと				
4 準備学習（予習・復習等）の内容				
授業内容をしっかり理解する目的で予習を行い、授業内容をしっかり定着させる目的で復習を行うこと				
5 教科書				
特になし 参考資料を配布します				
6 参考書				
鍼灸マッサージ師のためのスポーツ東洋療法				
7 成績評価の方法				
出席 試験 授業への取り組み				
8 教員紹介（学位、資格、指導経歴等）				
中学・高校の部活動のトレーナーも務める。				

分野	教育内容	科目と関係のある実務経験		
専門分野	総合領域	開業鍼灸師の実務経験		
授業科目		配当年次	配当学期	区分
専門科目C		3学年	前期後期	必修
担当者名		単位	時間数	授業形態
木下 立彦		1単位	20時間	講義
1 授業科目の概要・到達目標				
〈概要〉				
超高齢社会の到来に伴い鍼灸師が高齢者の施術にあたる期会は増加しており、今後さらに増えていくものと思われる。				
この講義では高齢者の身体的特徴・心理的背景・社会的背景を理解するとともに高齢者特有の疾患の特徴とその治療法について学び、高齢者に対する鍼灸臨床の特性を理解することを目標とする。また、鍼灸臨床に必要なトランスファー技術など、実際に高齢者の施術を行う際に必要な技能を身に付けることも目標である。				
〈到達目標〉				
この講義では高齢者の身体的特徴・心理的背景・社会的背景を理解するとともに高齢者特有の疾患の特徴とその治療法について学び、高齢者に対する鍼灸臨床の特性を理解することを目標とする。また、鍼灸臨床に必要なトランスファー技術など、実際に高齢者の施術を行う際に必要な技能を身に付けることも目標である。				
2 授業内容				
第1回	高齢者の特徴①			
第2回	高齢者の特徴②			
第3回	高齢者の特徴③			
第4回	高齢者の特徴④			
第5回	介護保険①			
第6回	介護保険②			
第7回	介護保険③			
第8回	トランスファー①			
第9回	トランスファー②			
第10回	トランスファー③			
第11回	まとめ			
第12回	課題試験			
3 履修上の注意				
私語は慎む。携帯電話・スマートフォン・飲食物は机上に置かない。学則に則って受講をすること。				
4 準備学習（予習・復習等）の内容				
授業内で確認テストを適宜行う予定。				
5 教科書				
6 参考書				
東洋医学臨床論（東洋療法学校協会編） 衛生学・公衆衛生学（東洋療法学校協会編）				
7 成績評価の方法				
1、定期試験が60%以上で単位認知とする				
2、出席状況・授業態度を「1」の点数に加味することがある				
8 教員紹介（学位、資格、指導経歴等）				

分野	教育内容	科目と関係のある実務経験		
専門分野	総合領域	鍼灸院の実務経験及び経営経験		
授業科目		配当年次	配当学期	区分
専門科目D		3学年	前期	必修
担当者名		単位	時間数	授業形態
山元 大樹		2単位	40時間	講義
1 授業科目の概要・到達目標				
〈概要〉				
解剖学を鍼灸施術と関連させることで、鍼灸施術においてより重要となる部分、危険部位等を再確認し、鍼灸施術をより正確で安全な臨床を行えるようにすることを目的とする。				
〈到達目標〉				
鍼灸臨床で直接的に関わる①筋骨格系②神経系③脈管系を取り上げ、経穴の部位の再確認や危険部位を関連させながら学び、高度な鍼灸施術が行えるようにすることを目標とする。				
2 授業内容				
第1回	ガイダンス鍼灸臨床におけるリスクマネジメントの意義と鑑別の重要性	第16回	しびれの臨床	
第2回	腰痛「解剖学」①	第17回	しびれ「上肢の神経解剖学」①	
第3回	腰痛の鑑別	第18回	しびれ「上肢の神経解剖学」②	
第4回	腰痛の臨床	第19回	しびれ「下肢の神経解剖学」①	
第5回	リスクマネジメント概論「鍼灸医療事故と有害事象の対策」	第20回	しびれ「下肢の神経解剖学」②	
第6回	危険経穴①			
第7回	危険経穴②			
第8回	危険経穴③			
第9回	気胸と心タンポナーデ			
第10回	肩こり「解剖学」①			
第11回	肩こり「解剖学」②			
第12回	肩こり「解剖学」③			
第13回	肩こりの鑑別			
第14回	肩こりの臨床			
第15回	しびれ 総論			
3 履修上の注意				
学則に従い受講すること				
4 準備学習（予習・復習等）の内容				
前回の授業内容を復習すること				
5 教科書				
解剖学〈東洋療法学校協会編〉（医歯薬出版株式会社）				
6 参考書				
鍼灸医療安全ガイドライン				
7 成績評価の方法				
定期試験1および定期試験2それぞれ60%以上の成績を合格とする。				
8 教員紹介（学位、資格、指導経歴等）				
合同会社 結 CEO、鍼灸院ひなた 院長				

分野	教育内容	科目と関係のある実務経験		
専門分野	総合領域			
授業科目		配当年次	配当学期	区分
専門科目E		3学年	後期	必修
担当者名		単位	時間数	授業形態
野口 智立、鈴木 誠、金 世野、佐々木 慎司		2単位	60時間	講義
1 授業科目の概要・到達目標				
〈概要〉				
鍼灸臨床で遭遇する患者に対し適切な施術ができるように西洋医学の内容を全般的に学習する。本講義では、人体の正常な構造と機能を理解するために解剖学、生理学、病的な状態や具体的な疾患や検査を理解するために病理学、臨床医学総論、臨床医学各論、リハビリテーション医学、その他として医療概論、関係法規、公衆衛生学も含めて、鍼灸臨床に必要な総合的な知識の確認を行う。				
〈到達目標〉				
基礎科目から応用科目に総合的に理解をし、鍼灸臨床において必要な知識を身に着ける。				
2 授業内容				
第1回 金先生	基礎医学系の復習	第16回 誠先生	臨床医学各論総復習④	
第2回 金先生	基礎医学系の復習	第17回 誠先生	臨床医学各論総復習⑤	
第3回 金先生	基礎医学系の復習	第18回 佐々木先生	病理学①病因、循環障害、病変	
第4回 金先生	基礎医学系の復習	第19回 野口先生	衛生学①	
第5回 金先生	基礎医学系の復習	第20回 誠先生	リハビリテーション総復習①	
第6回 野口先生	関係法規①	第21回 誠先生	リハビリテーション総復習②	
第7回 誠先生	臨床医学総論総復習①	第22回 佐々木先生	病理学②炎症、免疫異常とアレルギー	
第8回 野口先生	関係法規②	第23回 野口先生	衛生学②	
第9回 誠先生	臨床医学総論総復習②	第24回 誠先生	リハビリテーション総復習③	
第10回 誠先生	臨床医学各論総復習①	第25回 野口先生	衛生学③	
第11回 野口先生	関係法規③	第26回 誠先生	リハビリテーション総復習④	
第12回 誠先生	臨床医学各論総復習②	第27回 誠先生	リハビリテーション総復習⑤	
第13回 野口先生	医療概論①	第28回 佐々木先生	病理学③ 腫瘍、先天異常	
第14回 誠先生	臨床医学各論総復習③	第29回 野口先生	衛生学④	
第15回 野口先生	医療概論②	第30回 野口先生	衛生学⑤	
3 履修上の注意				
私語は慎む。携帯電話や飲食物は机の上に置かない。学則に則って受講をすること。				
4 準備学習（予習・復習等）の内容				
授業の予習・復習を必ず行い受講すること。				
5 教科書				
東洋医学概論、東洋医学臨床論、経絡経穴概論、はりきゅう理論				
6 参考書				
7 成績評価の方法				
成績は卒業見込試験の成績に代える。				
8 教員紹介（学位、資格、指導経歴等）				

分野	教育内容	科目と関係のある実務経験		
専門分野	総合領域			
授業科目		配当年次	配当学期	区分
専門科目F		3学年	後期	必修
担当者名		単位	時間数	授業形態
高松 巧、菅谷 匡美、阿部 好史、木下 立彦		2単位	60時間	講義
1 授業科目の概要・到達目標				
〈概要〉				
東洋医学概論、経絡経穴概論、東洋医学臨床論、鍼灸診察学、はりきゅう理論で学んだ東洋医学に関する知識を統合し、実際の患者を想定した演習を繰り返し行う。				
〈到達目標〉				
鍼灸臨床で実践できる東洋医学の知識として理解を深めることを目標とする。				
2 授業内容				
第1回	はき理Ⅱ：鍼灸の治療的作用、生体防御機構	第16回	東概・東医臨：問題演習&解説①	
第2回	はき理Ⅱ：鍼の血流に及ぼす影響、関連学説	第17回	はき理Ⅰ：リスク管理	
第3回	はき理Ⅱ：関連学説	第18回	経穴：横並び経穴	
第4回	はき理Ⅱ：問題演習	第19回	東概：六淫、内生五邪、内傷病因	
第5回	東概：気血津液弁証	第20回	東概・東医臨：問題演習&解説②	
第6回	東概：肝の病証	第21回	経穴：横並び経穴	
第7回	東概：心の病証	第22回	東概：陰陽学説、五行学説	
第8回	東概：脾の病証	第23回	東概・東医臨：問題演習&解説③	
第9回	はき理Ⅰ：鍼の基礎知識	第24回	経穴：足部・手部、頭顔面部	
第10回	経穴：流注、要穴	第25回	東概：古代刺法と東洋医学用語	
第11回	東概：腎の病証	第26回	東概・東医臨：問題演習&解説④	
第12回	東概：経絡弁証、八綱弁証	第27回	経穴：問題演習	
第13回	はき理Ⅰ：灸の基礎知識、鍼灸の臨床応用	第28回	東医臨：痺証、肩こり、腰痛、理学検査等	
第14回	経穴：奇経八脈、同じ高さの経穴 菅谷	第29回	東概・東医臨：問題演習&解説⑤	
第15回	東概：八綱弁証・六経弁証	第30回	東医臨：総復習	
3 履修上の注意				
私語は慎む。携帯電話や飲食物は机上に置かない。学則に則って受講をすること。				
4 準備学習（予習・復習等）の内容				
授業の予習・復習を必ず行い受講すること。				
5 教科書				
東洋医学概論、東洋医学臨床論、経絡経穴概論、はりきゅう理論				
6 参考書				
7 成績評価の方法				
経穴番付の得点率が60%以上の者に、卒業見込試験の受験資格を与える。 成績は卒業見込試験の成績に代える。				
8 教員紹介（学位、資格、指導経歴等）				